# 杉並第一小学校学校運営協議会　臨時会　議事要旨

日　時：令和６年１月 15 日（月）　17 時～19 時
場　所：杉並第一小学校図書室
出席者：村上徹也会長、伴野博美職務代理、松尾純一委員、狩野刀根男委員、手塚佳代子委員、
佐久間ゆかり委員、河野依子委員、岡田円治委員
山口祐美子校長、吉岡光弘副校長、杉田英昭副校長
杉並区：岸本区長、白石教育長、野口都市整備部まちづくり担当部長、岡本教育委員会事務局次長（学校整備担当部長）、青木教育委員会事務局学校整備課長、最上政策経営部施設マネジメント担当課長、郡司都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、中谷都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、安藤政策経営部企画課施設マネジメント担当係長、安川教育委員会事務局学校整備課教育施設計画推進担当係長

≪会次第≫

１　教育長挨拶

- 多忙な中、臨時会にお集まりいただき感謝する。この地域において素晴らしい教育ができているのは、CS の皆様をはじめ、地域の方々の協力によるものであると思っている。
- 杉一小の移転計画が、以前懇談会で話が進んで屋上校庭案で決まっていたことは私も承知している。しかしながら、先日の CS の中でも、B 案に決定後、説明が不十分であったことや、紙一枚で今までの話し合いが無駄になってしまったというような声があったと聞いている。
- 私としては、杉並第一小学校を良い学校にしたいという思いは強く持っている。我々の取組で不十分であった点や、長年に渡って皆様を苦しめてしまっていた点について教育長としてお詫び申し上げる。

２　阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりの取組状況等について

阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する説明会や、団体等との意見交換の取組経過について報告した。また、各取組の中で参加者からいただいた意見などを紹介した。

３　杉並第一小学校の学校づくりについて（教育長）

- 約 150 年の歴史を持つ杉並第一小学校がこれまで様々な教育活動をしてきたことは私も承知している。朝先生、ジュニアバンドなど、他の学校とは異なる教育活動を推進できてきたことは、CS の皆様をはじめ、多くの地域の方々の協力によるものだと間違いなく言えると思っている。
- こうした取組はこれから先も継続していくものであるし、継続できるよう我々教育委員会も支援していく。
- 現地改築、移転改築もそれぞれプラスマイナスがあるが、一番はこの場所に学校があったということであり、思い出などそうした気持ちが皆にあることである。
- 子どもたちがこれから先、杉並第一小学校で生活するにあたって、どこで改築するかが良

いか非常に悩んだが、私は病院跡地への移転改築の方が望ましいと考えており、そのことを区長にはお伝えした。

- 区長部局と教育委員会には役割分担はあるが、お互い連携・協力し、地域や学校関係者等も含め、どこに学校が建つとしても素晴らしい学校を作っていきたいという気持ちは変わらない。良い学校を作っていくというのが私の使命であり、それを投げ出すつもりはない。
- 繰り返しになるが、私は病院跡地に学校をつくる方が望ましいと考えている。今後も皆様の協力を得ながら、より良い学校をつくっていきたいと考えている。

４　今後の取組について（区長）

- 12 月８日に CS に伺った後、個別に委員の方とお話しさせていただき、懸念や意見等を伺ってきた。
- 阿佐ヶ谷駅北東地区のまちづくりは様々な側面があるが、CS の皆様にとっては杉並第一小学校の未来というのが出発点だと思うので、冒頭教育委員会からお話をさせていただいた。
- 区長部局と教育委員会はこれまで綿密に連携し、この大切なプロジェクトについて、できるだけ多くの方が納得できる道を示すために誠実な対応に努めてきた。
- 本日の広報に掲載しているが、１月 22 日に今後の進め方について区民に発信する予定である。本日は、現時点で私達がどのように考えているかを CS の皆様にお伝えし、意見を伺いたい。
- 今まで、基本的には意思決定された計画を進めることが出来るのか、私は立ち止まって多様な意見を聞いてきた。この間の様々な取組の中で、沢山の皆様からご意見を得ることができたのは大きなことで、これから先を作っていく糧となると考えている。
- 特に、学校に関して言えば、出発点というのは、子どもと保護者と先生方、学校に関わる皆様が、特に子どもにとって、安全安心な学校をつくること。そして、子どもの教育環境を一番に考えて、未来百年を構想した学校づくりをみんなで一緒におこなっていくということであり、子どもたちの環境を考えるうえで一番大切だと考えるところは、皆様からご意見をいただいたのは私たちも同じ立場である。
- そのうえで、今日は私が特に申し上げたいと思うのは、まず、教育長からも話があったが区長部局としても、今までのこの計画について、計画が変わった時、その後の説明会や様々な取組をしてきたことも承知しており、過去の取組の情報も整理されているが、実態として、納得されていない方がたくさんいらっしゃるという中で、改めて対話の取組をしてきた。
- その中では、まず、一番重要なのは情報公開に努め、区としての説明責任を果たす努力をしてきた。その取組の出発点は、いままでのやり方を反省しなければならないということである。その反省を踏まえて、次の道を区民の皆様に示すことが、私たちに出来る取組の出発点であると考えてやってきた。
- それとも関係するが、地域の皆様に協力をいただくためにも、この事業のこれからについてはプロセスの透明性を確保し、地域や小学校の未来を思う人々が分断されている状況を回復させなければならない。説明責任と今後のプロセスの透明性を確保することで、誰も

取り残すことなく、排除することなく、包摂した公共性の高いプロセスを作っていきたい。

- 新しい学校づくりについては、杉一小が今まで培ってきた歴史の上にある、子どもたちの教育環境や安全を最優先に考え、小学校を中心に発展してきた阿佐ヶ谷駅北東地区の良さや強みを継承しつつ、未来志向で学校づくりを行っていきたい。
- それにあたっては最大の当事者である子どもたちの意見をしっかり聞くこと。これについては、区全体で子どもの権利を擁護する条例を準備する中で、そして子どもの居場所という基本方針を策定する中で、大切な一翼となる学校においても子どもの意見を活かすということがどういうことなのかということを区の職員が学んでいるところである。ただ意見を聞くだけでなく、子ども目線からみた学校づくりや、行政運営について改めて学んでいくことが、阿佐ヶ谷駅北東でも重要な出発の一つになると考えている。
- 基本的には、様々な課題があったとしても、総合的、社会的、財政的に考え、ご意見を聞いたうえで、計画通り移転改築を進めさせていただきたい。ということを提案させていただくということははっきり申し上げるべきだと思っている。
- そのうえで、どのように進めていくかということを話しているが、具体的には、先ほど、子どもたちの安全や伸び伸び育つ教育環境と安全の確保が大切だと申し上げたが、より具体的にはブラスバンドの練習や、長期休暇中に保護者や地域の方々の尽力で行っている課外活動を継続できるようにしてほしいという切実な願いについて、学校関係者及び教育委員会だけでなく、区長部局も含めて区が長期的に責任をもって、その実現に向けてお約束していきたいと思っている。
- 地域の防災については、病院の跡地に学校が移転するということに対して様々な意見や不安の声をいただいている。この杉一小の移転を、地震による火災や水害など、地域による防災を改めて話し合って計画を作っていく重要な起点にしていくということがある。
- 1 月 1 日の能登半島地震が今でも日本全体で痛みも含めて共有されているところであるが、私たちが常に非常時のことを考えて防災力を高めていくことは、かわらず区の最重要課題である。まさに今この時に、地域の防災力を高めていくということ、新しくアップデートしていくことも含めて、東日本大震災の時から 10 年たっても震災救援所の状況があまり変わっていなかったり、子どもや妊婦、障がい者、高齢者の方たちへの配慮をしていくためにも、新しいきめ細かい防災の計画を作っていかなければならないと考えている。これについては新しい学校をつくっていくこの局面で、皆様にご協力ご相談させていただきたい。
- 移転改築をすることとなると、メリットとして防災力の向上があるが、具体的には少し広いスペースを確保できることになるので、備蓄のあり方や局地的な備えだけでなく、杉並区の他地域や近隣区で災害が起きた時にも役立つような環境づくりについてもスピード感をもって議論していきたいと考えている。
- 今日は阿佐ヶ谷駅北東地域を、学校を中心として、A 街区跡地の話もあったが、そこに関して、阿佐ヶ谷の杉一小が 150 年の歴史を積み重ねてきたその場所に、歴史をきちんと刻むことが出来るそういった計画について、ぜひとも皆様と一緒に話し合っていきたいと思うし、皆様に力を貸していただきたいことである。
- 子ども達を中心に、学校、阿佐谷のまち全体が、緑の回復や商店街が、今の阿佐谷の良さ

を活かす阿佐ヶ谷駅北東のプロジェクトに透明性をもって、区民と行政が協働していく。そういう未来を歩み始める、そのスタートを改めて切りたいと考えている。今日はこのような発信を区民の皆様にする前にあたって、改めて皆様と意見交換をさせていただきたいと思う。

5　阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換

【○：CS 委員　●：区】

○CS や、様々な団体と話し合いの機会を持ってくれていることは感謝する。教育長・区長から過去の懇談会後の経過について随分足りないところがありお詫びをしたいという話もあったが、これまでの移転計画を進めていきたいと受け止めた。結論からというと私個人としては残念である。前回も絶対反対と申し上げた。

河北病院が駅の近くになることになり、河北は電車で来る方も多いと思われるので、河北に来る方にとっては便利になることも含めて、河北の移転については全く反対するところではない。

私が反対だと言っている理由は、今回三角トレードのような協定が結ばれているが、子どもの教育環境をどういうものにしていくのかという視点が全く抜け落ちていると思わざるを得ないからです。単に土地の価値だけを見た交換に見えて仕方がない。教育長からも学校教育とは地域一帯となって子どもを育てていくものという話があった。私が改めて申し上げたいのも、地域あってこそ育っていく教育、或いは子供たちの元気な声が響き渡る「賑やかな街作り」なのです。

にぎやかな街にしたいのは誰しも同じと思うが、どんな街をイメージしているのか。少子化社会と言われている日本において、これからのまちづくりを考えた時に、子どもを真ん中に置いて、子どもの賑やかな声を中心においたまちづくりという考えもあるはず。過去の懇談会で、商店会の方が阿佐谷の北口は駅前に学校と神社と寺があるから発展しないと発言したが、私は全く違うと思う。北口は文化や教育をコアにした街として発展していけばよい。そういうまちづくりも考えられると思う。

今回も杉一の跡地をどうするかとなったときに、それはこれからという話だった。

まちづくりの基本的なコンセプトが見えてこない。子どもを中心としたまちづくりとするのか、他と変わりのない商店街にしたいのか、タワマンを建てたいのか。少し違うのではないか。岸本区長になられて、阿佐ヶ谷駅北口をどういう風にしたいのか、全く白紙なのか。指導者として自身が描くコンセプトを考えてほしい。

これから考えるのであれば、子ども達や若い人たちの賑やかな声が響くような街づくりもありうるのではないか。そうした視点も含めるのであれば、急いで河北の跡地に杉一が行くことを決める必要はないのではないか。杉一跡地の話をこれから住民と考えていくのであれば、杉一を現在地に残して、子どもを中心としたまちづくりを、時間をかけて考えていきたい。

●杉一小が移転した後に関して、区として明確な方針をお示しできない部分があるが、区長としての考えはこの間の意見交換の中でも、阿佐ヶ谷駅北東地域の防災のあり方であった

り、子どもの教育のあり方であったり、商店街を含めたにぎわいなど、様々な意見があった。委員のいったような子ども中心のにぎわいのあり方もあるのではないかと思う。その部分は区長のいった透明性の高い参加のプロセスの中で決めていく。

　では、それが決まっていないのなら今急いで移転する必要ないのではないかという考えもあるかもしれないが、この事業はこれまで進めてきた部分もあって、順番に計画に沿って進めている。計画に基づいて進めている以上、これをやめるとなると、それこそ杉一小の建て替え自体に支障も出てきかねない。こういったことについてもこの間説明させていただいている。そういった、今ここで立ち止まり続けるリスクも含めて考慮したことが、区として、区長としての考えである。

○話は分かったが、本来杉一の跡地の考えがあってから、３者の土地交換があるのが普通ではないか。なぜ杉一小の跡地の利用の在り方が決まっていないのか。コンセプトすら提示されていない。なぜ長い間Ａ街区の活用の話がされていなかったのか。

○ここで立ち止まってくれと言っているのではなく、Ａ街区の跡地が決まっていないのであれば、杉一小が Ａ 街区にあってもいいのではないかということ。まちづくりなのにメインとなるＡ街区跡地にコンセプトがないのはおかしい。防災を重視するのであれば、Ａ街区に学校があった方が防災に便利かもしれない。そういったところを私達は納得できないまま話をされている。意見交換というが交換になっていない。今日の会も何のための会なのかわからない。

●メッセージとして出すのではなく、区長として誠意をもって直接意見交換した結果としてお話ししたいということ。

○区がやっていることは、言い訳と反対している私たちを説得して穏便にやっていこうという姿勢にしか見えない。そういうことを思ってほしい。

　まちづくりというものは、地域をどういう方向にもって行きたいかという姿勢があってしかるべきだと思うが、ただトップが決めたことに理由をつけて実行しているようにしか見えない。杉一小の敷地を民間の工事のために渡して、子ども達が影響を受けている。そんなことがあったのに子どもを中心にするというのはおかしい。ダンプカーが朝往来している現状を見に来て欲しい。

　警察、西友、JR などもっと広い範囲を巻き込んで取り組むのがまちづくりではないのか。三者で決めたことに理由をつけて進めていくことは納得できない。

○来週には計画通り進めるということで理解したが、何点か答えていただきたい。一つはＣ街区とＡ街区の高低差はどれくらいのるのか。

●2．5m～３m程度ある。

○聞くところによると Ｃ 街区の周りの地域は水害が起こった場所が近くにあって、昔は沼地のような水の出やすい場所であったと聞くが、歴史的にそのような事実はあるのか。

●沼地という表現が正しいかはわからないが、桃園川の水路が過去に Ｃ 街区の東側にあった。Ｃ街区の東側は行政上水路の取扱いである。

○東日本大震災の際に Ｃ 街区の周囲で土地が液状化に近い状況になった部分があったと聞くが、そのような記録はあったか。

●区の方では液状化がおこったということは認識していない。東京都の液状化予想マップで

は、そのようなことが発生しないエリアとして指定されている。

〇能登半島地震は行政上の想定外が起きている。そこでは液状化ということが言われている。古くからある学校は、安全な場所に建っていることが多い。杉一小がこの場所に設置されているということはＣ街区よりもＡ街区の方が土地的には災害に強いと推測される。区長に確認してほしいのは、Ｃ街区で工事が始まって防災上リスクの少ない工事を進めていくと費用が想定外に増していくのではないかということ。また工期も延びる可能性もある。そうなった場合、前区長ではなく、現区長が責任を負うべきであると考える。こういう話があったことは記録に残していただき、何かあった場合区長が責任を取れるようにしてほしい。子どものためにしっかりお金と時間をかけて工事を進める必要がある。

〇防災でいえば火災が心配である。高円寺・馬橋・阿佐谷北地域は木造住宅が密集していて、地震災害時の火災延焼地域として指定されている。杉一の現在の場所は神社があり、学校まで延焼してくる可能性は少ないかもしれないが、河北跡地は木造家屋密集地帯に接している。輪島のような火災があった場合、避難地点にできない。わざわざそういう場所に移転する備えも考えてもらわないと、子どもたちも危険になる。移転が防災面でもプラスになるかのように聞こえるが、災害時に防災拠点として使えるか疑問である。

〇前区長が決定したことを継続して新区長が進める苦労はわかる。こういう機会を持っていただいたことはとてもありがたいが、説明がなかった長い時期があったにもかかわらず、この間の 1 か月程度の期間で決めたのはなぜなのか。区長が多忙なのはわかるが、1 月 22 日ありきではなく、もう少し私たちの意見を聞いてから決めた方が良いのではないか。賀詞交歓会で区長から住民自治という発言を聞いてありがたいと思った。どういう結果になろうとも、もう少し私たちの意見を聞いて考えた末の結果を聞けると思っていた。なぜそんなに急ぐ必要があるのか非常に不思議に思う。もう少し時間をかけて声を聞いていただいてから、区長や教育長の考えを再度聞きたい。今宣言をされてもどう答えていいかわからない。

　様々な団体の話を聞いているのは素晴らしいが、関係者や地域の団体と、学校と思いの差はあると思う。それを同じにするのは私の中では違うと思う。再度日程調整してほしいし、区長の話は残念に思う。もう少し対話してほしい。

　納得というが、杉一はなんでもかんでも反対ではなく、子どもを中心に考えて杉一が次の場所に移転すればよいと判断できるような理由があればいいが、今日の話では決定したのでご理解くださいといっているようにしか聞こえない。

〇区の方で現在の校舎に課題があるので建て替える必要があると理解している。今の子どもたちがこの校舎で５，６年過ごす場合、今の子どもの保護者は建て替えに関して現実味がない方が正直多い。ただ、子どもたちを真ん中にというのであれば、今の通学している子どもや建物、先生について軽視しないでほしい。例えば現在４階のエアコンが効かなかったりしている。これはPTA 会長としての要望である。

●4 階のエアコンについて現段階で対応に関して明言できないが承知している。

●改築を予定しているから今の教育環境が悪くてもいいと教育委員会は考えていない。これは区長部局も同様である。

〇この場で返事があるとは思っていないが、せっかくの場なので、将来の話だけでなく、今

いる子どもたちにも目を向けてほしい旨発言させていただいた。
〇他の区立施設の協議会での経験で、地域の方が分断された状態で区立施設が運営されていることがあった。今回は間に子どもが入っており、そういった大人同士の分断が子どもに伝わってしまうのは凄く嫌である。今回決まったことに関しては、納得は出来ないとしても、大人の事情が子どもに伝わらないよう、決まったことには前向きに協力してもらうようなメッセージを出してほしい。大人の愚痴などを子どもが聞くのは不幸だと思う。
　もう一つは、学校が移転した跡地の利用について、以前の反省を踏まえてこの日までに意見を貰う。結論を出す。など、今後のステップを明確化する必要がある。しっかり今後のマイルストーンを設定し、皆様に周知すべきではないか。なるべく多くの方が気持ちよくできるような話し合いのとりまとめについて考えてほしい。
〇教育長が移転した方が良いと考えている理由は何か。
●（教育長）総合的にではあるが、敷地面積が大きくなるというのは理由の一つである。
〇他にはあるか。私たちはこの間 CS としてこの場に留まりたい理由を教育委員会に伝えてきたが、それを踏まえても教育長は敷地面積をもって移転した方が良いと考えているのか。
●（教育長）もちろん歴史のある場所でここにいたいという報告は聞いているが、学校を建て替える時に、他の事例をみても出来る限り広く学校の敷地を取りたいという話を聞く。広い校庭で子どもたちを過ごさせたい。という話は私がこれまで改築に関わってきた中で一番多い意見だった。それを考えると、移転することで敷地が広くなることは間違いないので大きな理由と申し上げた。
〇他の学校ではそうかもしれないが、ここの学校でそういう意見は出たのか。
●（教育長）それはわからない。
〇杉一が移転するに当たって私たちの意見ではなく、杉並区の他の場所の意見がそうだったからというのはどうかと思う。以前の現地建て替えの時は計画の段階から当時の教育長が入っていたと聞いている。その時、教育長が現在地を教育のランドマークタワーになるようにと言っていた。その当時の委員は敷地が広い方がいいと言っていたけれども、教育委員会から説得されて複合化にまとまった。以前と今で教育長の言っていることが違うのではないか。区長は前と今で同じであるが。それなら前区長の意見も変えられるのでないか。
●（教育長）学校というのはどこの地域でもランドマークであると思う。当時の教育長が駅前の一等地で杉一小をランドマークにすると言っていたのは私も今と立場が違うが話は聞いており、そのことを今も否定するものではない。ランドマークは建物としての考え方もあるし、文化としてのシンボルという考え方もある。間違いなく杉一小は教育活動のランドマークであるし、それはこれから先も変わらない。移転の話が出て、区長部局の決定に教育委員会が同意して平成 29 年度に B 案が決まったが、それで杉一小がランドマークにならないとは思っていない。教員であった自分の経験を考えた時、広い方が私は良いと思っている。
〇資料 3 ページにある資料で C 街区の白い部分は今後どうなるのか。
●未定である。
〇きれいな四角になるように進めていくのか。
●全部が四角になるかはわからないが、可能性としてないわけではない。

●赤く囲んでいる土地区画整理事業に入っていない部分については、今後も広くなるよう取り組んでいく。また、学校の敷地が広くなるよう土地の権利者と相談しながら進めていく。

〇昔の改築検討懇談会は既成概念に捉われない学校づくりということでやってきて、今の方々が当時の方々と熱意が違うことに驚いている。学校区の指定を外した時期に、杉一小は校舎が古い、校庭が狭い等の状況はあったが、杉並区の中で自分たちの学校区域ではなく杉一に子どもを行かせたいという方がとても多くなった。それを今になって敷地が広いことをもって移転させ、跡地はこれからということに驚いている。

昔はコンセプトがはっきりしていた。教育長は歴史があるからここに残りたいのはわかるというが、ここに学校があるから人の賑わいを生み出す力があるということを私たちは身をもって経験してきたからこそ、ここに杉一小があることに意味があると思っている。

今も計画はあるというが、当時はもっと壮大でみんなが情熱と夢を抱けるまちづくりの計画があった。

〇今までの経緯が色々あったと思うが、今後も色々な立場の方からあった意見について、丁寧に対話を続けていただきたい。区の職員が変わったとしても引継ぎをしっかりしていただきたい。

改築の当事者となるこれから入学してくる方にも情報が伝わるように、次の代の保護者にこの経緯などを出来る限り引継ぎはしていきたい。それがしっかりされていくことで対立が減っていくのではないか。保護者の中でも賛成と反対の方がおり、分断させないために気を使っている。区でも、出た意見に対する具体的な対応などを示していただけると、PTA の執行委員会などでも説明しやすい。

●（区長）今日いただいた意見の他にも、違う場所では違う意見をいただいている。この間行ってきたオープンハウスや意見交換会でいただいた意見などは基本的に全て公開していく。これまで作成してきた資料をアップデートし、公開できる情報を広げながら今までいただいた意見にどのように対処していくのかを示していくことに今私たちは尽力している。今後については A 街区の跡地が決まっていないにもかかわらず、なぜそんなに急がなければいけないのかということについては、A 街区の跡地について何を大切にしていきたいかということで言えば、分断ではなく、共に学校や阿佐ヶ谷駅北東を作っていくスタートを切らなければならないと考えているからである。これが進まないと違う所ではまた分断が起きることも事実である。

私は多角的に見て、３つの協定が締結されている以上、協定を失効させた場合、今まで一緒に区画整理事業に取り組んできた地権者からそのことに対する補償を求められることになる。協定を失効させず、地権者の方に説明し、A 街区に学校を複合化させるような区民のアイディアのメリットを考えた場合、子どもに良い環境を作れるかということを教育委員会とも議論してきたが、A 街区を今後学校がある限り借り続けなければならないことや、仮校舎のコスト面など、すべての区民に納得してもらうのは大変難しいというのが多角的に考えなければならない立場である私の一つの大きな点である。

それからこの協定を失効させるにしても、させないにしても、もう一度新たな合意形成をするために最低でも５年計画が遅れるということは前回示したが、とても分断の要素が強い５年間を乗り越えていくよりも、今ある状況の中の最善を尽くしたい。そして、今の

計画に従って進めるに当たっては、ここから先の A 街区跡地は文化と防災と緑と教育ということをしっかりと区民が感じることが出来る計画というのを地権者との協力のもと作っていきたいというのが私の大きな思い。それをつくるに当たってのプロセスを始めたい。

それは学校づくりと A 街区の跡地活用が伴走していきながら進んでいく阿佐谷のまちづくりセッションと改築検討懇談会の組織を立ち上げるという提案をさせていただきたい。重複する方やそうでない方もいらっしゃると思うが、特に A 街区については杉並全体を考えている方たちも包摂した形で進んでいきたい。

学校づくりと学校の跡地利用は子どもたちを真ん中に進んでいくことを皆様にお示しできる姿というのを、言っているだけでなく、文書として出すべきではないかと思う。今までの経過を整理したうえで進んでいく、その先に当たっては人が変わっても根拠とすることが出来るようなものを紙に落として、その中にはこれから続けていく協議、これまで言っていたこと以上に更に具体的に新しい杉一の場所での防災の取組と計画などをお見せし、協議していくような、皆様にとっては担保となる行政との約束事を作っていくことが必要だと皆様とのお話を聞いて思っている。

〇情報公開という話の中で、全ての大もととなる三者協定は既に公表されているのか

●ホームページで公開している。区長の補足をさせていただくと、防災の話が岡田委員からあったが、火災も水害も同じであるが、現に被害が起こっている場所に避難するものではなく、火災や地震の場合は広域避難場所に行ったり、水害のない場所を選んで高台に行くなどしてもらっている。その中で住民が逃げ込む場所をどうすればいいかとなった時に、杉一小の場所の話ではなく、地域の中での防災をどうしていくかの議論をしていくものだと思う。その次に一定程度被害が収まった時に安心して避難できる救援所としての杉一小がどうあるべきかに繋がっていく。地域の防災をどうしていくかは区としてしっかり考えていかないといけないし、これまで以上に取り組んでいく。

跡地活用の段取りについて委員から意見があったが、これまでの意思疎通が足りなかった反省を乗り越えていくためにも、これから行っていくものについては開かれた議論をしていくために、皆様のご協力をいただきながら、これからの方向性についてお伝えしていきたいと思う。今日の会も説明して納得してほしいのではなく、今後出来る限りの協力をいただくために区として話をさせてほしいということでこの場を設定させていただいたというのが本心である。

委員からも引継ぎについて意見があったが、役所の悪いところがこの間の説明不足に表れてしまったと考えており、今後組織として改善していく。

学校については当時改築検討懇談会で皆様方に尽力いただいて新しい学校のコンセプトを熱心に作り上げていただいた。移転先の学校に関しては、そこまでの議論が現時点でできていないが、今後の改築検討懇談会や地域の方が入るまちづくりセッションで議論していきたい。

〇移転が決まった後の後付けの話はいらない。

●学校の移転をすべきではないという話はこれまでいただいていたが、そこについては、現計画のままで進めたいというのが今日の区の考えである。

○それならそれだけでいいのではないか。

●これまでの反省に立ってこれからをしっかりやらせていただきたいというのが私たちの言いたいことである。

○様々お話しいただいているが、私たちの心には響いていない。冒頭教育長から考え抜いた末移転が良いという結論を区長に申し上げたということで、委員からも教育長に移転が良いと思った理由の質問があった。私は教育長から移転の理由についてどんなお話を聞けるかと思っていたが、残念ながら教育長から出た言葉は「場所が広くなる」という一言だけだった。長く教育に携わってきた一人の教育者として、もっと深い考え方、移転の理由が聞けると思っていた。区長にもその理由だけで移転を勧めたのでしょうか。みんなが思いの丈を話している中で、教育長がどれだけこの移転のことを考えていたのか聞けると思っていた。率直に言って、失望した。

　もう決まったことという話もあったが、私はまだより良いアイディアが出れば変えられると思っている。教育長も、とことんまでこの問題を考えた上で、子供たちの教育を真ん中に置いた考えを聞けることを次回期待する。

○CS の会長として、これまで意見が割れることもあったが、校長先生に学校のビジョンを示してもらった中で、分断が起きないよう調整させていただいていた。

　区長にお願いしたいが、ビジョンのないものに人を集めても分断を生み出してしまう。ビジョンがないと皆勝手なことを言い出してしまう。これから A 街区の活用について、リーダーの区長が人を集める前に、自分のビジョンを行政の中で共有してもらい、行政の方々に納得してもらってから色々な人を集めて意見交換をしてもらいたい。そうしてもらわないと、CS の中で今後の話はまとまらない。この場でもビジョンは示されていない。

　今日のお話は、今までの経緯を考えた結果、この結論にならざるを得ないという説明。区長のビジョンがあって、意見がまとまっていくという順番を間違えないようしてほしいし、CS としてもお願いしたい。

●（教育長）先ほど委員からの質問に、広さが一番大きな理由と話したが、これは間違っていない。例えば杉一で放課後やっている杉っ子クラブなど、狭い中で工夫しながら行っていることは伺っているし、日常の教育活動にしても運動会にしても、何にしても私は広い方がいいに決まっていると思っている。広すぎて困ることはないと考えている。私にとって広さというのは経験から得た非常に大きな条件であることは間違いない。

　２倍、３倍の広さになるわけではないので、何でも出来るかどうかはわからないが、少しでも広くなることで今まで出来なかったことが出来るようになるのは子どもにとって大きな教育活動の拡充だと思っている。より良い教育活動のために広さはそれだけ重要と考えているため先ほどそのように発言させていただいた。また、他の委員からランドマークの話があったが、歴史だけでなく、中身も充実している学校として杉一は場所がどこになろうと杉並区のランドマークであると期待しているし、信じている。

●この方針に基づくスケジュールについて案内申し上げる。４月を目途に改めて改築検討懇談会を立ち上げ、移転後の新たな校舎について検討を開始する。ついては CS の皆様に委員の選出を追ってさせていただく。ご協力の程よろしくお願い申し上げる。

○学校の意見はないのか。

〇学校としては前回話したとおり、与えられた施設で、それを活かして最高・最善の教育を創り出していくことがミッションだと思っている。それはこれからも変わらない。ただ、この移転の問題がこの地域に投げかけた大きな波が CS にも影響している。そのことは理解していただいていると思うが、先ほど委員からも対立や分断という言葉があった。

保護者の間で賛成派や反対派といったことを話す方がいると聞く。保護者の考えは子どもたちに伝わっていく。学校の中で分断が起こると通常の教育活動は阻害される、保護者間で対立が起こると、協力してもらうことは困難になる。

以前、人の鎖を作って工事を止めるというようなニュースを見た。この地域でも移転は大きな問題である。大きな声で煽ってしまえば自分の気持ちを発散でき、周りとのつながりも強くなるが、杉並第一小学校に集う方々はそれをよしとはしていない。

子どもたちに、保護者に、地域に対立や分断が起こらないよう、ご自分の気持ちを抑えて働きかけてもらっているのが CS の皆様であるということをお伝えしたい。CS の中でも一人一人の立場や考えが違うため衝突が起こることもあるが、会長や職務代理が上手く対応している。たくさんの方が杉一小のために時間を使い、心を砕き集まってくれていることに校長として感謝申し上げる。過去からの伝統、現在の充実、未来へ夢と希望を紡いでいく杉一小であり続けたい。絡まった糸をほどいていけるように、今後もお付き合いいただければと思う。